

# 土地活用モデル大賞とは

## 目的

土地活用モデル大賞は、土地の有効活用や適切な維持管理に取り組む模範的事例、成功モデルとなる事例を募集し、優れたものについて「国土交通大臣賞」をはじめとする表彰を行い、優れた土地活用事例を全国的に紹介しその普及を図ることを目的に、一般財団法人都市みらい推進機構の主催、国土交通省の後援により実施するものです。

## 理念

本大賞は、活気に満ちた地域社会の実現や地方創生の推進に貢献することを理念とします。

そのため、表彰の対象を「土地が有効に活用された土地活用プロジェクト」とし、地域の課題を認識し、その解決に向けて、土地の活用・再生利用・保全利用・管理を図り、都市の生産性向上や地方創生などに取り組むプロジェクトを幅広く対象とします。

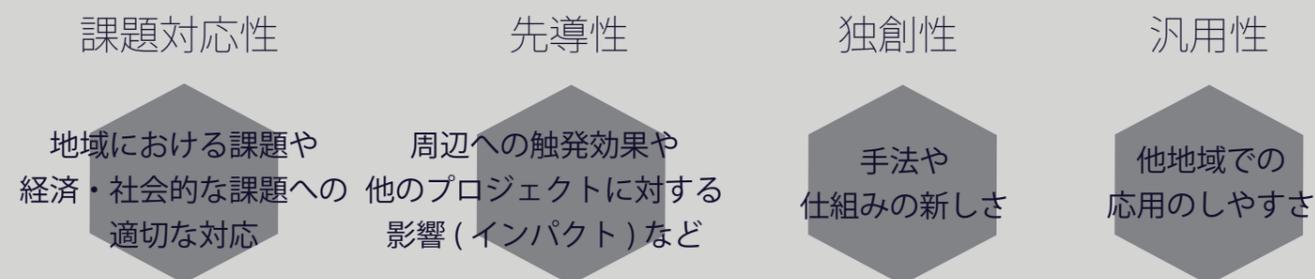
選定にあたっては、土地の所有や利用の状態、事業規模の大小、取組主体の属性等に関わらず、土地活用の具体化に当たってのスキームや体制の工夫、周辺地区の活性化、社会的な貢献、環境改善、取組の発展性など、総合的な観点で審査を行い、優れたプロジェクトを表彰するものです。

## 特徴

本大賞は、バブル経済崩壊後に発生した、虫食い状態の未利用地や大規模な低未利用地を利活用した成功事例を表彰・公表することにより、低未利用地の活性化について全国的に普及させる目的で平成16年に創設されたものです。その後の社会経済状況の変化等により、土地活用のあり方も再開発、区画整理等の面的事業を含む柔軟なまちづくりへの要請、PRE・CRE、不動産証券化等に関するニーズを反映し、表彰プロジェクトについても変化・多様化が進んでいきました。

近年は、リノベーション、廃校利用、クラウドファンディング、低炭素まちづくり、社会実験など多様な土地活用事例が表彰されており、エリアマネジメントなど持続可能なまちの運営などに取り組むプロジェクトも選定されています。

## 審査基準



# 土地活用の知恵袋に

今、全国各地で多様なまちづくりが展開されていますが、いずれのプロジェクトも「土地」と無縁に進むことはありません。まちづくりの「活動」を支える「空間」のベースが「土地」であり、その「土地」には様々な法制度や商習慣、地域の慣習など我々の社会の仕組みが色濃く反映されています。

従って、これまでも先進的・挑戦的なプロジェクトでは、こうした「土地」をいかに上手に活用するか、について様々な工夫が施されてきました。土地の権利の取り扱いに関する工夫、土地とプロジェクト資金の関係に関する工夫、土地管理や土地運営に関する工夫などその視点は様々です。

「土地活用モデル大賞」はこうした土地の取り扱いに関する工夫・知恵を広く共有することを目的としています。他の地域でも活用していただけたらという「土地活用の知恵」を束ねた「知恵袋」でありたいと願っています。



審査委員長 岸井隆幸

## 令和6年度土地活用モデル大賞審査委員

委員長	岸井 隆幸	一般財団法人計量計画研究所代表理事
委員	浅見 泰司	東京大学大学院工学系研究科都市工学専攻教授
	井出 多加子	成蹊大学経済学部名誉教授
	姥浦 道生	東北大学災害科学国際研究所教授
	大来 哲郎	株式会社日本政策投資銀行地域調査部長
	廣瀬 公亮	国土交通省不動産・建設経済局土地政策課土地調整官
	福岡 孝則	東京農業大学地域環境科学部造園科学科教授

(委員：五十音順)

## 受賞プロジェクト（令和6年度）

賞の種類	受賞プロジェクト	掲載頁	
＜国土交通大臣賞＞	シーパspark（泉大津駅西地区周辺整備事業）	【大阪府泉大津市】 3	
	＜都市みらい推進機構理事長賞＞	馬場川通りアーバンデザインプロジェクト	【群馬県前橋市】 5
		麻機遊水地公園活用事業 ～自然とふれあう体験型の都市緑地～	【静岡県静岡市】 7
	都城市中心市街地中核施設整備支援事業	【宮崎県都城市】 9	
＜審査委員長賞＞	宇都宮駅東口整備事業	【栃木県宇都宮市】 11	
	横浜国際港都建設事業 新綱島駅周辺地区土地区画整理事業	【神奈川県横浜市】 13	